

Young Officials Camp 2007 参加報告書

審判員名	白木 怜美
所属名 勤務先名	所属名 :クラブ連盟 勤務先名:本埜村立滝野中学校
大会名	Young Officials Camp 2007
期 間	2007年8月10日(金)～12日(日)
会 場	埼玉県上尾市埼玉県スポーツ研修センター / 埼玉県立上尾運動公園体育館
参加人数	44名(内訳:男性26人、女性18人)
スケジュール	<p>8月10日(金)【1日目】 12:00 受講者受付(全44名参加) 13:00～ 開講式【研修センター】</p> <p>14:30～ <実技 >【上尾運動公園体育館】 講師: 吉田正治氏 18:30～ 初日の総評【研修センター】 講師: Zamojski jakub氏 18:45～ <講義 > バスケットボールの歴史について 講師: 堀内秀紀 氏(日本協会事務局) 19:15～ <講義 > メディアからバスケットを見て 講師: 小永吉陽子 氏 20:00～ <講義 > コーチ・プレイヤーからバスケットを見て 講師: 萩原美樹子 氏(女子日本代表A・コーチ) 21:30～ 班別ミーティング</p> <p>8月11日(土)【2日目】 9:30～ <実技 >【研修センター体育館】 講師:吉田利治 氏 山崎人志 氏 水原規恵 氏 19:30～ <講義 >【研修センター】ルール・マニュアルの正確な理解について 講師:平野彰夫 氏(規則委員長) 20:00～ <講義 > 審判活動における語学力の重要性について 講師:佐々木潤 氏(国際渉外委員長) 20:30～ <講義 > レフェリングに関するレクチャー 講師:Zamojski jakub氏</p> <p>8月12日(日)【3日目】 9:00～ 閉講式【研修センター】 1.部長挨拶 (橋本信雄 氏) 2.講師代表講評 (Zamojski jakub氏) 3.諸連絡 9:30～ <実技 >【研修センター体育館】 15:30 各自解散</p>

8月10日(金)

< 初日の総評 > 講師 Zamojski jakub氏

【内容】

基本を押さえて欲しい。それをすることで次へのステップに繋がる。

1. オン・ザ・コートで自信を持って、リラックスした状態で望めるか。

コールのシグナル

ファールを吹いた瞬間にそのプレイヤーを見る

相手レフェリーを確認する

動きかた

これらについて、落ち着いた状態で自信を持って行うことを意識して欲しい。

2. 視野の責任分担について、相手レフェリーと協力して行うことを意識して欲しい。

2人で10人のプレイヤーを見て、相手レフェリーを必ず確認する。なぜならそれらを行うことで、コーチ・プレイヤー・観客が安心できるからである。

【所感】

普段からコールのシグナルなどについては意識していたことなので引き続き意識しようと思った。視野分担に関しては、自分のエリアで精一杯になり課題となるところだったので、意識していきたい。

< 講義 > バasketボールの歴史について 講師:堀内秀紀 氏(日本協会事務局)

【内容】

(財)日本Basketボール協会50年誌を元にBasketボールの歴史について講義を受けた。Basketボールは、初め桃のかごを使って行われていたこと、日本人にBasketボールを初めて伝えた人の話や、Basketがどうやって今のような形式になったのかという話があった。

【所感】

今まで、Basketボールの歴史について考えることなど無かったので、今回は貴重な話をいただいた。

< 講義 > メディアからBasketを見て 講師:小永吉陽子 氏

【内容】

報道(メディア)の視点からBasketを見ていて皆さんに伝えたいことは、Basketボールを生で観戦する機会を増やして欲しい。なぜなら、選手もゲームも常に変化する生ものだから実際に見て感じて欲しい。決して決めつけることなく、変化していくBasketスタイルを肌で感じて欲しい。それが審判でも生きてくと思う。

【所感】

いろいろな試合を生で見て、日々変化していくBasketを肌で感じることは、審判にとって、大事な要素だと思った。なぜなら生で見る選手がBasketをしていて、その選手が心身共に安定した状態でプレイしてもらえるようにサポートするのが審判だと思うからである。これからは今以上に、いろいろなところへ足を運び、たくさんの試合を肌で感じたいと思った。

< 講義 > コーチ・プレイヤーからBasketを見て 講師:萩原美樹子 氏(女子日本代表A・コーチ)

【内容】

コーチ・プレイヤーという視点からBasketボールをやっている皆さんに伝えたいことは、以下の2点である。

1つ目は、『笛の基準を1試合統一して欲しい。』ということである。なぜなら、コーチ・プレイヤーは笛によってプレイを変えたり、作戦を考えたりするからである。また、一貫性がないと審判に対して不信感を抱いてしまう。

2つ目は、『何となく好感が持てる審判になって欲しい。』ということである。それは、背筋がピンとしていたり、表情が豊かであったり、選手のことを考えて吹いてくれるということである。そういう審判に対しては、何となく好感が持てるものである。

【所感】

笛の統一に関しては、以前に甲府クウィーンズの炭田氏からも話をいただいたことがあり、笛の基準の統一は、コーチが1番求めていることであると感じた。そして、立ち振る舞い、態度も見られているということを常に意識して取り組んでいきたいと思った。

<班別ミーティング>

班別ミーティングでは、自己紹介を始め、各県の審判状況などを話しあった。

私の班は、私が最年長ということもあり、班長をやらせていただいた。歳は、私と同じ25歳が4人もいて年齢層は高かった。公認暦も自分と同じ2・3年目が多く、課題としていることが同じだった。県によっては、自分よりも公認暦が浅く、歳も若い人が県の決勝など大舞台でたくさんの経験を積んでいると聞いて衝撃的だった。それを聞いた時、私も早くそういう舞台で吹きたいと思った。年齢、経験に関係なく、共通していたのが、みんな上級審判員になるという目標を持っていたことであった。どんな環境でやっても最終的に目指しているものはみんな同じであるということを感じ、意識が高まった。

<講義 > ルール・マニュアルの正確な理解について 講師:平野彰夫 氏(規則委員長)

【内容】

ルールについて、シリンダーとリーガル・ガーディング・ポジションについて講義をしていただいた。シリンダーは動いているプレイヤーには存在しないこと。リーガル・ガーディング・ポジションは相手に向かい合っ、両足を普通に広げたポジションをとること。一度そのポジションをとったプレイヤーは、平行、または後ろに動くことができるなど、ルールブックに書いていることの再確認をしていただいた。また、ルールブックには95%のことはすべて載っているので自分でよく読み理解しておくことが大切である。

【所感】

映像を使って、シリンダーやリーガル・ガーディング・ポジションについて見ることができ、とてもわかりやすく理解できた。理解したことをコート上で示していけるように訓練していきたい。また、ルールに関しては、周りに聞く前にまずは自分で調べる習慣をつけたいと思った。

<講義 > 審判活動における語学力の重要性について 講師:佐々木 潤 氏(国際渉外委員長)

【内容】

英語の必要性について、1つはゲームの運営を円滑に進めるためである。1つのゲームで、最低7カ国の人がいる。その共通語として英語がある。もう1つは、コミュニケーションをとるためである。日本には16名のFIBAレフリーがいらっしゃる。日本のレフェリーはレフェリーとしての技量・英語のコミュニケーション能力が良いと評価されている。

語学力を身につけるには、積極的に英語と接する機会を増やすこと。そして、間違いを恐れぬことである、とのお話をいただき、自分の意思を伝え、相手の意思を読み取る、コミュニケーションをとるために英語が必要不可欠だと感じた。

【所感】

今まで英語を話すのが苦手で、避けていたところがあったが、今回の話を聞いて、これから先の目標を考えると、少しでも英語と関わる機会を積極的に増やし、コミュニケーションがとれるくらいの語学力をつけたいと思った。

<講義 > レフェリングに関するレクチャー 講師:Zamojski jakub氏

【内容】

昨夜同様、以下の3点を大切にしてほしいという内容があった。

- 1.責任分担を意識すること。
- 2.コールをする前、判定を下した後の時間をゆっくりと行うこと。
- 3.相手審判との協力をすること。

グットレフェリーとは、良い判定・正しい判定をすることである。そのために、正しい見方をしなければならない。正しい見方をするために、正しい位置で見なければならない。良い判定をするためには、一番良く見えるところに動くことに尽きると考える。そのために必要になってくるのがプレイの予測とメカニックの理解である。プレイの予測は、目の前で起こるプレイと次に起こるプレイに備えた準備、この2つを備えた位置にいるのがよい。

メカニックはいくつか紹介していただいたが、相手審判の位置を常に確認しておくこととオフボールのプレイヤーがどこにいるか認識することが重要であるとの事でした。また、動くということは、何か目的・意味を持っていないといけない。納得する判定とは、予測して止まって確認して判定することである。

【所感】

私はまだボール中心のところがあるので、オフボールでの状態を気にするように心がけたいと思った。そして、コーチ・プレイヤーに納得してもらうために、よい位置で、プレイを待ち構えて判定すること。これが、コーチ・プレイヤーがストレスをためず、プレイに集中できる方法の一つだと感じた。

実技内容 10分×2クォータのゲームを行い、その後班ごとにミーティングを行った。

試合

8月11日(土) [女子] 主審 伊奈学園高校 VS 上尾高校	相手審判員名 田中智也(京都)
[女子] 主審 伊奈学園高校 VS 大宮商業高校	相手審判員名 中里恵美子(東京)
8月12日(日) [男子] 主審 川口東高校 VS 川口北高校	相手審判員名 川北聖人(茨城)

【指摘されたこと】

8月11日(土) 講師:講師:吉田利治氏(東京) 山崎人志氏(埼玉) 水原規恵氏(神奈川)

『1試合目』

- ・ 2人で同じ所を見ている場面があり、次のプレイへの対応が遅れている
- ・ リードの時に、5番から6番エリアに近い場所(ローポスト付近)でシュートがあったときにスペースをとらえに行った方がよい。

『2試合目』

- ・ 必要なところで判定できていたが、オールコートであたられたときなど、もう少し危機感を持ち見に行ったほうが良い。
- ・ リードの時右へ行く機会が増えたのは良いが、もう1歩寄って、より良いスペースが捕らえられると良い。

8月12日(日)

- ・ スペースは意識できていたが、プレイから遅れている場面があった。
- ・ もう少し相手審判も視野に入れると良い。

全体の感想

今回の講習で、世界で審判活動をされている方からお話を聞けたり、コーチやメディアからの視点で話を聞くことができたり、たくさんの方々とお会いすることができて、多くの刺激をいただきました。また、私と同じ上級審判員という目標を持った全国の仲間と出会い、語り合えた事で目標に対する思いがもっと強くなりました。

今回の講習で何か特別なことを言われたかという、そうではなく、普段県内で教えていただいていることが多かったのも、いつもと同じように意識して取り組むことができました。しかし、それがまだできていないと、改めて自分の未熟さを感じました。それは、基本をしっかりと理解すること。基本の一つとして、オン・ザ・コートでの姿、形、表現の仕方をしっかりと示すこと。プレイの1歩先へ行き、よい角度・距離で判定をすること。そして、相手審判との協力のために、お互いの視野分担の確認(コミュニケーション)、マニュアル・メカニクの理解をしなくてはならないと強く感じました。また、精神的にも体力的にも安定させることが大切だと感じました。今回の講習で、2名が熱中症にかかり講習を受けることができませんでした。やはりオン・ザ・コートで力を発揮するために、日頃から体調管理をしっかりと行なわなければいけないと感じました。また、どんな試合でも落ち着いた状態で判定するために、精神的にも安定させなければならぬと感じました。これらを克服すれば、必ず次のステップへつながると思いました。

これから、目標を達成するために、やるべきことが明確になりました。一つ目は、プレイヤーやコーチのやりたいことを感じられるように、数多くのゲームを観て、バスケットボールの楽しさ、厳しさなど肌で感じることです。次第にコート上で感じられるようになると思います。ゲームを感じることができれば、そのために必要な場所へ足を運ぶ予測が付き、よい位置で判定ができるようになると思います。二つ目は、相手審判との責任分担ができるようになるために、マニュアルを再度読み直し、頭で理解し、意識して身体で繰り返し訓練していきたいと思えます。三つ目に精神的に安定させるために、日ごろからどの試合でも緊張感を持って試合に臨む習慣をつけたいと思えます。その3点について常に意識してこれから取り組んでいきたいと思えます。

最後に、このような機会を与えてくださった方々に感謝しております。今回経験したことを、これから先に繋げ、日々努力していきます。ありがとうございました。

以上